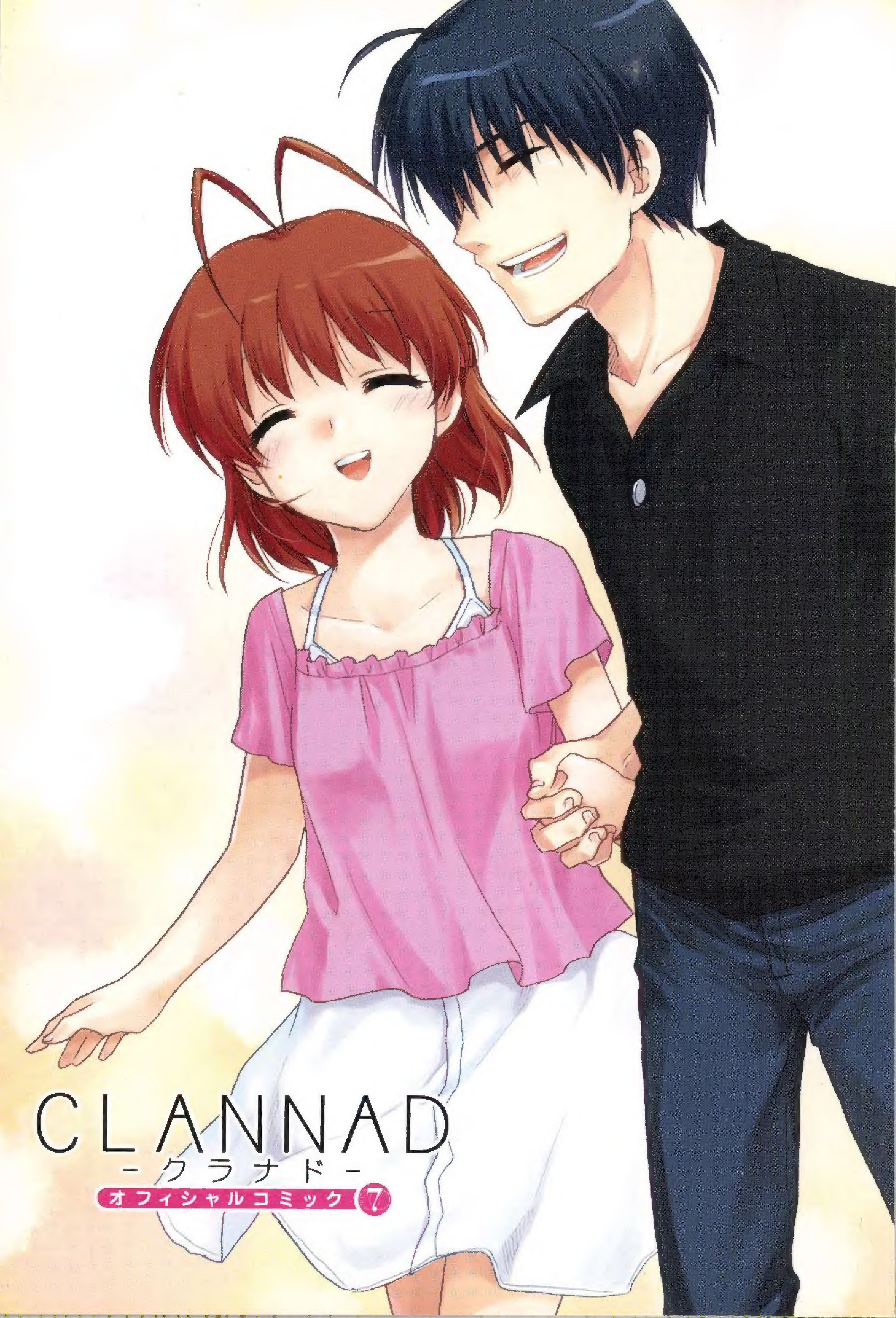

CLANNAD
-クラナド-
オフィシャルコミック 7
原作: KEY
漫画: みさき樹里
CR COMICS

CLANNAD オフィシャルコミック 7

Key × みさき樹里



CR COMICS


CLANNAD
-クラナド-
オフィシャルコミック 7

Contents




プシュー…
ご乗車ありがとうございました
ブロロロ…
たっ
ルバイト募集!!
——ここでなら見つけられるかもしれない
新しい町
ボクの大切なもの——…
番外編
~さがしもの~


ウィーン…
ごめん くださーい
はいっ!
いらっしゃい ませー
わ…
ドキ…
ドキ ドキ
かわいい 人だなーーっ
えっと… あの バイト募集の チラシを見て 来たんです けどっ
あ はい
それでしたら マネージャーを 呼びますので こちらで少々 お待ちください
ありがとう いい人だね キミはっ
いえ… そんな…
かわいい 方です…


あー…
楽なバイトだといいなー…
え…
バイトとして雇ってほしい？
はいっ
このチラシ見てここしかないって思ったんですっ
よろしくお願いしまーすっ！
うーん…
今はもうバイト募集してないんだけどね…
それ 2ケ月前のチラシだし…
えええーっ!?
そんなのずるくない――!?
ずるいって君ね…
せめて電話確認するとかあるでしょ…
ダメなんですかぁ…!?
うるっ…
う…っ


…とりあえず履歴書見せてもらえます？
コホ…
落とした!?
あっ!?
履歴書がない!!
・・・・・・
えーと…じゃあ自己紹介とか…？
は…はいっ
訳あって住所不特定無職柊勝平です
勝平♂
シュー…
あ…
あれ……!?
カラン
どうぞ


あ…
さっきの…
はい
岡崎 渚と
いいます
もと…
面接…
残念でしたね
柊さん
ぶっすう〜〜ぅ
…ほーんと
まさか 男だから
ダメなんて言われるとは
思わなかったよ
ブッ
ブッ
ブッ
ブッ
ぷんぷん
そんなら
最初から
期待なんて
持たせないで
ほしいよね…
渚さんも
そう思う
でしょ？
あ…えと
はい…
すいません…
わたしも女の子
かと思いました…
じっ
…ハァ
この町なら
見つかるかもって
思ったんだけどなー
この町…
という事は
柊さんは町の外から
来られたんですか？
うん そう
訳あって
旅人なんだ〜
ボク
あははははっ
だから
住所不特定


そうなんですか
わたしはずっとこの町にいますから
柊さんみたいにいろんな場所に行けるのはうらやましいです
…そ
そう言ってもらえると嬉しいな
はいっ
探しものしてるんですか？
――…
うん
…見つけられるかどうかはわからないんだけどね
そうですか…
いったいなにを――
あ…すみません
立ち入った事を聞いてしまって
ううん気にしないで


……でも
――治らない？
じゃあ ボクの足は……？
……ええ 残念ですが……
……そうだね
これはきっと ボク自身が 見つける事に 意味があるんだよ
まぁ
それでも 見つらなきゃ しょーがない かなってさ
あ〜〜〜 こんな性格 だからダメなの かもね ボク
あっけらかん
えっ
いえ… そのっ
けして そんな事は――…


いいな
キミにとって この町は 優しい場所 なんだろうね
え…？
違う町に行きたかったんだ
新しい事を 見つけようと思ったから 辛い記憶のある町から 逃げ出したかった
──でも


場所が変わつたところで
ボク自身は
何も変わらない
この町ならつて
思つたのも結局
ただの逃げる口実かもしれない
そんなボクに
いつたい 何が――…
どこでだつて
遅くないですよ
大切な事…
それを守るためなら
その時からだつて
人は
変われるんだと
思います
柊さんの探しもの
きつと
見つけられますよ
この町で


かあ…っ
な…
はいっ
わたしも大切な人のおかげで強くなる事ができましたからっ
がっ
渚さんっ ありがとう…!
…あ!? どうかしましたかっ!?
ううん… ただの思い違いだから…
柊さん…
ま… そうそう上手くいくわけないんだけどさ…
けっこーショック…
はぁ…
渚さんが見てるのはその向こう側にいる誰か
…なんだかそいつがうらやましいよ
はい?


ありがとうございましたー
フゥ…
ーーまいったな
不思議だった
渚さんの笑顔が
あんまりにもステキだったから…
ボクの中にも欲ってものが
わいてきたみたいだ
探していたのは
希望とか
生きがいとか…
なんでもよかった
ただ
生きていくための
支えになれば
たたっ
でも 今は
それだけじゃなくて
共に生きて
支えとなる人ーー…
まだ見ぬ
ボクの大切な人を
見つけられたらなって…


そう思うんだ
あ…あの大丈夫ですか？
どこか気分でも悪いんですか？
ああ大丈夫だよ
これから隣町の病院に行くとこなんだ
よかったらバス停までお送りします
ああ…ありがとうねぇ…
早く町の大きな病院が完成しないかねぇ…
病院か…
いつまでも逃げてばかりはいられないかもね――…

CLANNAD
-クラナド-
オフィシャルコミック


――雪
今もなお
それは降り続け
僕の体を
白く覆っていく
ギ…
…僕は
こんなところで
何をしているんだろう
雪に
埋もれながら
いつから
こんなところに
ひとりぼっちで
いるんだろう…
……
ギ
キキ…


——ああ
そうだった
僕はひとりきりじゃなかった
この子とふたりで…ずっといたんだ
この世界で
第35回
～朋也の決断～
この誰もいない
もの悲しい
世界で——…


ミーーン
ミーーン…
残暑の厳しい夏だった
ガタッ
ただいまーーー
渚ー…
ドクンッ
ーーな…


渚あっ!!
おい…!
しっかりしろ
渚…!
ドクン
酷い熱が――……
ドクン
ドクン
渚…っ
渚――……
――っ!
ハァ
ハァ
意識がない…!
ドクン
ドクン
と…とりあえず病院に…いや
ガシャン
そうだ早苗さん――!!
トゥルッ
トゥルルルルッ
トゥルルルルッ
頼む…っ早く出てくれ!


カチャ…
──はい 古河です
早苗さんっ…!
渚が…渚がすごい熱なんですっ
…朋也さんっ?
渚が熱を出したんですか?
は…はいっ
酷い熱で…っ
帰ったら渚が床に倒れてて……!!
俺…もうどうしたらいいか…っ
──…
…落ちついてください 朋也さん
まずは布団に寝かせて…
それから濡れタオルをひたいに当ててあげてください
私も八木さんに連絡して すぐにそっちに向かいますから…
はい
それでは…
…はい
カチャ…
ガチャン


…よし
布団に寝かせて
濡れタオル――
そんな事にも
気づかなかった
早苗さんと
八木さんが
来るまでの
辛抱だ…
待ってろ
渚――…
…酷いんですか？
いえ
今はだいぶ熱も
下がってきて
いますから…
このまま
安静にしていれば
大丈夫ですよ
じゃあ
赤ちゃんは…


赤ちゃんにも特に影響はないと思いますよ
不安でしたら一度検診を受けてください
…あ
…それならよかったです
——俺のせいだ
俺がもっと渚の事を見てやるべきだったんだ
ぎゅっ
こいつは頑張りすぎてしまうってわかっていたのに——…
自分を責めないでください
誰が悪いというわけではないんです
後悔するばかりだ
…すみません
でも…俺が気をつけてやるべきでした
いえ この子がそうしたかったからこそです
…今は朋也さんがしっかりしてないと


チッ
チッ
ん……
チッ
チッ
渚!
苦しくないか?
大丈夫か?
…朋也くん…
お母さん…
…ごめんなさいです…
また迷惑かけてしまいました
いいんだ謝る事ない
迷惑だなんて少しも思ってないから



晩ごはん…作ります
できるわけないだろっ!!
——頼むから ゆっくり休んで くれよ…
今早苗さんが おかゆ作って くれてるから…
それ食べて 早く元気に なろうな
——はい… ごめんなさいです
それじゃ また明日 来ますね
はい…
本当 すみません 早苗さん… もっと俺が——…
あら
朋也さん さっき渚に 謝るなって 言ってましたよ



朋也さんもあまり無理しすぎないでくださいね
いつでも手伝いに来ますから
…はい
あ オッサンにもよろしく伝えてください
はいっ
それじゃおやすみなさい
ぺこ
おやすみなさい
子供だって心配ないって──…
あの頃とは違うんだ
…去年 そして2年前もそうだった
あの時は半年くらい起きる事ができなかったんだ
熱だってすぐ下がってくれる…
なら──…今回はどうなんだろう



ドクン
ドクン
ドクンッ
…そんなわけ
ないよな…
嫌な事ばかり
考えてしまう
──だって
俺たちはやっと
入籍して
子供もできて…
仕事だって
これから
もっともっと
頑張れるって
何もかも
これからだって
そう
信じていたのに


…
それから
しばらくたっても
渚の熱は下がらなかった
…ッ
プルルルル
プルルルルッ
チャ
はい
岡崎ですが
小僧か
俺だ
オッサンか
なんだ?
お前明日
仕事休め
は?
…何
言ってんだよ
イキナリ
休めるわけ
ないだろ…
イキナリ
休め
あのな…



なら次に休めるのはいつだ
用かあんたよてめえに
用？
連れて行きたい場所がある
遊びに行くのかな…？
……
変なとこなら承知しないぞ
安心しろ
そう楽しい話にはならねぇから
…わかった
休みがとれたら連絡する
ああ…
ガチャン
…お父さん
また無理な事言ってきたんですか?
いや…
なんか
オッサンにしてはマジな感じだったかな…


幸い
その2日後に
休みがとれた
おう
来たか小僧
なぁ 店は
どうすんだよ
早苗さん
だって
いないのに
今日は
無人販売だ
え…
いいんだよ
店の事は
気にすんじゃねえ
行くぞ
ついてこい
お…おい
たたっ
…そもそも
どこ行くのかすら
聞いてねえんだけど
なんだよ
楽しくない
とこって
――……
…遊び場だよ
――…？
遊び場――？


ミ——ン
ミー
暑い…
ミーン
なあ オッサン…
かれこれ30分くらい歩いただろ
あと どのくらいかかるんだよ その場所は!
——あれ?
そういえば ここって…
…いい遊び場だったんだよ
ガキども集めて野球してたんだ
——それが
今はどうだ


見るかげもなくなっちまった
ザァァァ
…ここ病院ができるっていう…
――ああ 知ってたのか小僧
この町は変わり続けていく
ドクン
そうさ こうして自然がどんどんけずられてって病院ができるんだと
もう野球だってできねえし眺めもよくねえよ…
それはどうも止めようがねえみたいだ…
――ああ… そうみたいだな
――そう感じていたのは俺だけじゃなかったのか


…別に俺は自然を守るとか思っちゃいねえ
町は人のために変わり続けていくべきだとも思う
だけどな
この場所だけは変わってほしくなかったんだ
——あれは
ふーーっ
本当に
悲しい出来事だったんだ——……
これは2年前演劇の前に話した話の続きだ
渚が死にかけた時の話だよ
10年前——……
——渚
渚


それじゃあ
行ってくんからな渚
なるべく早く帰ってきますからね
…はい
いってらっしゃいです
当時…
俺たちはそれぞれ目指していた仕事についていた
早苗は中学校で教師をして――
俺は劇団に入って稽古とバイトの毎日だった
だから渚はいつもひとりきり
夕方になると決まって門の前で俺たちの帰りを待っていた
泣きそうな顔しながらな


──そんなある日
渚が熱を出した
雪が積もる
冬の寒い日だった
そして 俺たちふたりも
どうしても
仕事を休むわけに
いかない時期だった
結局また
渚はひとりに
なってしまった
すごく
寒い日だった
まさかと
思ったんだ
渚っ!!



…渚はその日も
門の前で俺たちを
待ってた
熱が40度
超えてても
そこにいた
それは
渚からの
訴えだったんだ
熱なんて
関係なかった
渚はただ
いつもそうしてた
ように
いただけなんだ
…酷い状態
だった…
医者が
かけつけた時には
もう───…
こんな終わりなんて
望んでやしなかった



――っ…
こんなの嘘だ
こんな事
あっていいはずがない
渚をかかえたまま
やみくもに走った
もう
祈る事しか
残されて
いなかった
――そして
俺は この場所に
辿り着いていた
あんなに
悲しい事なんて知らなかった


ザワ
ザワ
ザワ
ザワ
不思議な
感覚だった
ザワ…
――まるで
この場所の緑が
渚をつつみ込んだ
ような気がした


お父さん――…
目の前で渚が笑ったんだ…
涙が出たよ
――それ以来俺はこの場所をずっと見てきた
この場所がまるで渚の分身みたいに思えてよ
タチの悪い冗談だ――…
それじゃあ渚がこの場所のおかげで生き返ったとでも言うのか――…
…てめえがこの話をどこまで信じるかわからねえ
だがひとつ言っておくぞ小僧


いや——
朋也
俺たちは家族だ
何があっても助けあっていくぞ
——頭の中でオッサンの言葉が回っていた
スー
何ひとつ理解できないまま不安ばかりが大きくなる
——…
渚の手のぬくもりは確かな存在だった

CLANNAD

-クラナド-

オフィシャルコミック

第36回
～辿り着く場所～




こうして
ふたりで
喫茶店なんて
まるで
デートみたい
ですねっ
——え
ザワ
ザワ
え…っと
そうっすね
と　とりあえず
何か
頼みましょうか
ドキドキ
はいっ
ザワ
すみません
変だ
ん〜
どれに
しましょう


……
明らかに今日の早苗さんはおかしい…
―思えば違和感はあった
こんにちは～
すみません まだお昼すませてないんです
勝手に何か作って食べてていいですか？
あ… そうなんすか どうぞ
普段からオッサンと一緒に食事するとこしか見た事なかったし
あっ
バタン
お米がないみたいですね
私ちょっと買いに行ってきます
え マジっすか？ 俺行きますよ
米なんて重いし…



大丈夫です 外で食事して その帰りに お米買って 帰りますから
いや でも……
…それなら おふたりで 行ってきたら どうですか？
渚…
それじゃあ すみませんが 朋也さん お借りしますね
…なんだか
わたしは ひとりでも 大丈夫ですから…
渚がそう 言い出すのを 待ってた ような――…
カチャ…
お待たせ しました コーヒーです
あれ？
…ご
ごゆっくり どうぞ――
ああ… サンキュ
さささーっ


あいつ…
何か勘違いしてるな
さすが朋也さん常連さんですねっ
いや…今のは渚の友達で一緒にバイトしてたんですよ
つーか会ったことあるでしょ
はい卒業式の時ですよね
やっぱり…
俺も そんな何回も来てるってわけじゃないし…
…あれ？早苗さん
ジュースだけですか？
はい
実は お昼食べて来てます
朋也さん
お話ししないといけない事があります
——え…


出産…
難しいそうです
……
——あ……
…このままだと
母胎も危険で…
お医者さんから
そう聞きました


——このため…
だったんだ…
ブル
ブル
決断するなら
早いほうが
いいと——…
…決断？
はい…
堕胎するなら
という事です
…熱が下がって
落ちつけば
問題ないんです
けれど 渚の熱は
長引きますから…
それで先生も
そういう話を——
ザワ
ザワ
——……
ザワ
ザワ
ザワ
…少し
時間が
かかっても
構いません
どうか
渚とふたりで
よく話し合って
みてください
お願い
します
…


だんごっ
カチャ…
だんごっ
だんごっ
おかえりなさいです
朋也くん
…渚――！
ちゃんと寝てろって言ったろ…！
今日は割と調子がいいんです
このくらい平気です
なで…
しおちゃんにもだんご大家族好きになってほしくて…
だから こうして聞かせてるんです
だんごっ
だんごっ
だんごっ


…どうしろっていうんだろう
これから伝えないといけない事があるっていうのに
――なんて辛い役割
――あのさ…
お母さんと食事してきましたか?
ああ…
そうですか
お母さん若く見えるので恋人同士に見えるかもです
あ
お米重くありませんでしたか?
いや…
米は買ってない
…?
お米買わなかったんですか?
…朋也くん
元気ないみたいです
…言わないといけないのか――…
…子供難しいって


このままだと母胎も危険なんだってさ……
…わたし産みたいです
産みたいです……
…ああ
そう言うと思った
理由がどうあれ渚がひとつの命をなかった事にするなんて選択するはずないんだ
だけど──……
…わかってるのか
母胎が危険だって事は──……
もちろんです それでも…！
しおちゃんを
ちゃんと産んであげたいです…っ


だけど
…なっ 渚
よく考えよう…
大事な事なんだ
すぐに結論
出さなくても
いいからさ…
—もし渚に
何かあったら…
…朋也くん
…そう思うと
説得するしかなかった


翌日…
その次の日
そのまた次の日になっても話し合いは続いた
渚の決心は変わらなかった
…わたしの弱さのせいで
ひとりの人の命が消えてしまうなんて耐えられないです
わたしの…母親の強さでしおちゃんを産んであげたいです
それが自分の子ならなおさら――…
…だけど
その身体でさ お前――…
わたしは…
朋也くんと出会ってから強く生きようと頑張ってきました
こんな…一番大事なところで挫けたくないです


身体の弱いわたしですけど…
お願いです朋也くん
どうか…強く生きさせてください
——これが渚なんだろうか
学生の頃——
ひとりで坂も登れず立ち止まっていたやつが
今はもうその影すらない
……
…お前はもう充分強くなったよ…
俺は恐いんだよ…
不安で堪らないんだ…
ド



お前に何かあったらって…不安で堪らないんだ
俺の方がよっぽど弱いよ…
…もう いいじゃないか…っ
朋也くん――
わたしは大丈夫です
朋也くんがいてくれるなら
そうすればどんな事だって頑張れると思うんです
母親として
こうして――…手を握っていてほしいです


お願いします朋也くん
朋也さん…大丈夫ですか？
早苗さん…
…俺もうどうしたらいいか…
まだ結論なんて出てないんです
俺が言っている事はすごく残酷な事かもしれない…
だって名前まで決めてたんだ…
俺だって渚に産めるなら産ませてやりたいです…！
…
だけど――…
不安で仕方ないんです
俺は渚に生き続けてほしい…！


――朋也さん
今日は家に泊まってください
――え…
代わりに私が渚と一緒に泊まります
今はお互いの存在が疲れさせていると思います
渚もきっと疲れているはずです
少しでも距離をとるべきだと思います
これはふたりを一番近くで見ているものの意見ですよ
――――…
…朋也さんだってもう少し休んだ方がいいです
…眠れやしないっすよ
それでも――…体を横にしているだけでもいいんです
このままだとふたりとも息がつまってしまいますよ


…わかりました
よろしくお願いします
なんだぁ!?
嫁を寝とられたような シケた面しやがって
…それ以上にシケた面してると思うけどな
かあっ
シャキっとしろよ おい


……仕方ねぇな
眠れてねぇんだろ
呑むか
あ…いや
今呑んだら
泣くか笑うか
暴れるか
しそうだ
──安心しろ
泣いても
笑っても暴れても
俺が押えつけて
やっから
ガラララ…
よしっ
上がれ
ぐーっ
びくっ


トンッ
ぷはーっ
……
…なぁ
オッサンならどうすんだよ
こんな時…
さぁな
俺はその立場に立ってねえ
例えばだろ…
例えば早苗さんの体が弱くて子供を産むのが難しいってなった時…
オッサンならどうすんだよ
…早苗が産むっつったら産ませるかな…
なんでだよ…!
それで早苗さん死んじゃうかもしれないんだぞ!?
早苗を勝手に殺すなぁ——っ!!
だから例えばだって言ってんだろ!!
ちっ
何だその顔は
シュッ
……なぁ朋也
俺はこう思うんだ
結局 人が生きる意味ってのは
家族や愛する人の中にあるんじゃないかってな


だから俺たちはあの日…
自分たちの夢をあきらめて渚に託すことができたんだ
ひとりで生きてたっていい事なんかありゃしねえよ
遠い星でひとりで暮らしてみろ
何を糧に生きていける？何もねえだろ
だから人は繋がってんだ
それで初めて生きているって実感できる喜びだって生まれる
——だから それを否定する事なんてしたくねえんだよ 俺は
——…
まぁ これは俺の考えだ 気にするな
…もっと早く
気づいていればよかったんだろうか…！



あんなにも大きくなる前にさ…
いや…
わかるだろ それは関係ない
じゃあ俺が悪いんだ…
それも違うな
これは…いつか訪れる事だったんだよ
あいつが人並みを求める以上――…
あいつが求めたんだ
自分を責めるな
……


――……
そろそろ寝るか
時刻は午前3時を回っていた
人の生きる意味は家族や愛する人の中にあるんじゃねえかってな
自分の夢を諦めて……渚に夢を託してそして渚の幸せを見守っていく――……
そうしてオッサンはそこに行き着いたんだ
わたし古河渚はもう泣きません
朋也くん
朋也くんっわかりますか？渚です


朋也くんを大好きな渚です
――……
俺も同じだ
そしてそれは――……
いつだって人の夢や幸せはそこにあった
渚と暮らしともに幸せになる…
それが俺の生きる理由なんだ…
自分の中に命を宿した渚も同じなんだ
…俺は
それを諦めさせようとしているのか――…
不安で堪らなかった


あの場所の
自然みたいに
変わらないもの
なんてなくて…
渚が
手の届かない場所へ
行ってしまうような
気がして——…
わたしなら
大丈夫です
朋也くんが
いてくれるのなら
——いや
そんなのは
関係ない…
そんな事は
信じない
俺たちは今まで
どんな壁だって
乗り越えてきたんだ



朋也くん
手を握っていて
ほしいです
そうすれば
どんな事だって
頑張れます
──ああ…
そうだよな…渚
渚が
そう言うなら
ふたりで頑張ろう
力を合わせて
前に
進むんだ──
ふたりの
夢を叶える
ために──…


毎度ありやした――っ
ふう…
あ…
……
おはよ
ニッ
ああ
おはよ
眠れてたみたいじゃねぇか
ああ…酒のせいかな
二日酔いは？
…大丈夫だ
俺もう行くよ
世話になったな
オッサン
おう
カラ…



俺を…止めなくていいのか？
——ああ
一番苦しんだ奴が答えを出せ
後の事は俺たち家族が全力でサポートするさ
カララ…
こんにちはー
おういらっしゃい
そら商売の邪魔だ帰った帰った！
ああ…
またなオッサン


——あれから
もう一度お医者さんに連絡しました
もし このまま小康状態を保てるなら出産は可能だそうです
ですが危険な事に変わりはないと…
八木さんは判断はまかせるとの事です
出産するなら全力を尽くすと言ってくれました
そうですか
ありがとうございます
早苗さん…
もしかして俺を恨んでませんか？
はい？どうしてですか？


俺が渚を変えてしまったからです
変えた…？どういう事ですか？
出会った頃の渚は本当に弱くて——……
いつだって泣いてて…
俺がいないと校門の坂も登れなかったんです
…でも俺と出会って
渚は強くなった
だから
今こんな事に…
…そんな事思いもしませんでした
渚がそうありたいと願うなら…私たちは見守りたいと思いますから
もちろん朋也さんの事もそうです
——…



そう言って許してほしかったんだろうか
これから俺がやろうとしている事を
ありがとうございます早苗さん…
いえ家族ですから当たり前ですよっ
本当…かなわないなあの人たちには――…
それでは私は一度家に帰りますね
あ はい また連絡します
カチャ
――ただいま 渚

CLANNAD

-クラナド-

オフィシャルコミック



渚
ガチャン
──朋也くん…

第37回
～雪解けの町～




早苗さんの話を聞いてから
説得する事しか頭になかった
どうすればいいのかわからなくて
怯えてたんだ俺は
…手
握っててほしいです
ぎゅ…
あぁ…
でも
…なぁ渚
ひとつだけ聞かせてくれ
お前が強く生きる事…
子供を産んで育てて…母親として生きる事…
それはお前にとってなんなんだ？


わたしのやるべき事です
それは一番なのか？
はい一番です
今まで弱かったわたしが母として最初にやる事なんです
ここで負けたら…
わたしは人の親になる資格のない弱い子です
それだと わたしに宿ってしまったこの子が――
しおちゃんがあまりにかわいそうです



だから…絶対に産まないといけないんです
朋也くんとの間にできたこの子を
…渚
俺は…
お前と一緒に生きていく事が生きる理由なんだ
はい…
俺の生きる理由
──そしてお前は強く生きたい
強い母として新しい命を産みたい…
それがお前の生きる理由だ
渚の生きる理由


はい
…なら ふたつの夢を叶えよう
それらを絶つ事なんてできない
いいんですか…？
ああ
それが俺の出した答えだ


そのかわり
絶対に負けては駄目だ
絶対叶えるんだ
他の結果はない
挫折も失敗も
俺たちに
必要ない
ふたりの夢を
叶えるんだ…
絶対に
いいか 渚
はい
——笑った
それはきっと
未来の母の顔


目指す道はひとつ
その未来を強く願った
ぽすっ
こんにちはー朋也さん
あ
こんにちは
ふたりともどうぞ上がってください
渚起きてますか？
おめえら飯は？
さっき済ませたよ
具合はどうですか？
はい
いつも通りです
そうですか…
ご飯はちゃんと食べられましたか？
はい…
渚は頑張り続ける
俺もオッサンも早苗さんもそんな渚を支え続ける


お
そうだ これ やるよ
え…なんだ これ？
おしめ
安売りしてたから ふたつ 買っといたぜ!!
はっはっはっ
いくらなんでも 早すぎるだろっ
あんだよ どうせ使うんだし いいじゃねぇか
つーか トイレの紙が 切れてんだよ
俺に おしめを はかせるんかっ
クス クス
渚の夢は 母親として 強く生きる事
俺は そんな 渚とともに 生きていく事
とりあえず こっちー
オッサンや 早苗さんは そんな俺たちの 幸せを願って くれていた



みんなの夢が 繋がり 家族が ひとつとなって 歩いていた
すぐ隣りに 誰かがいると 感じられる――…
そんな 日々だった
…堕胎する のであれば これが最後の 機会です
カチャ


…何度も申し上げている通り…
母胎の安全を第一に考えるのであればそうした方がいいと私は思います
これからはさらに多くの負荷がかかります
乗り切ったとしても分娩に要する体力が残っているかどうか…
その時はお腹の子はどうなりますか…？
分娩に関しては原則として母胎を優先する事になります
…ですが岡崎さんの場合体力と抱えてる疾患の問題もあります
死産してしまったり合併症を引き起こす可能性もあり…あらゆる種類の危険が想定され――…
もし その場合母胎の無事は私には保証できないのです
ズキン


ちっ
なんとかしてみろてめえ
――……
もちろん私に出来る事はすべてやってきたつもりですしこれからも続けてまいります
う。。。
…ああ
わかってるよっ
それでも産むとおっしゃいますか
ガリ ガリ
ちっ
――どうか今一度 ご家族で話し合ってください
それでも渚は産もうとするだろう


もう みんな
わかっていた
誰も
何も言わない
ただ少しだけ
心を落ち着かせる
時間が
欲しいだけ――……

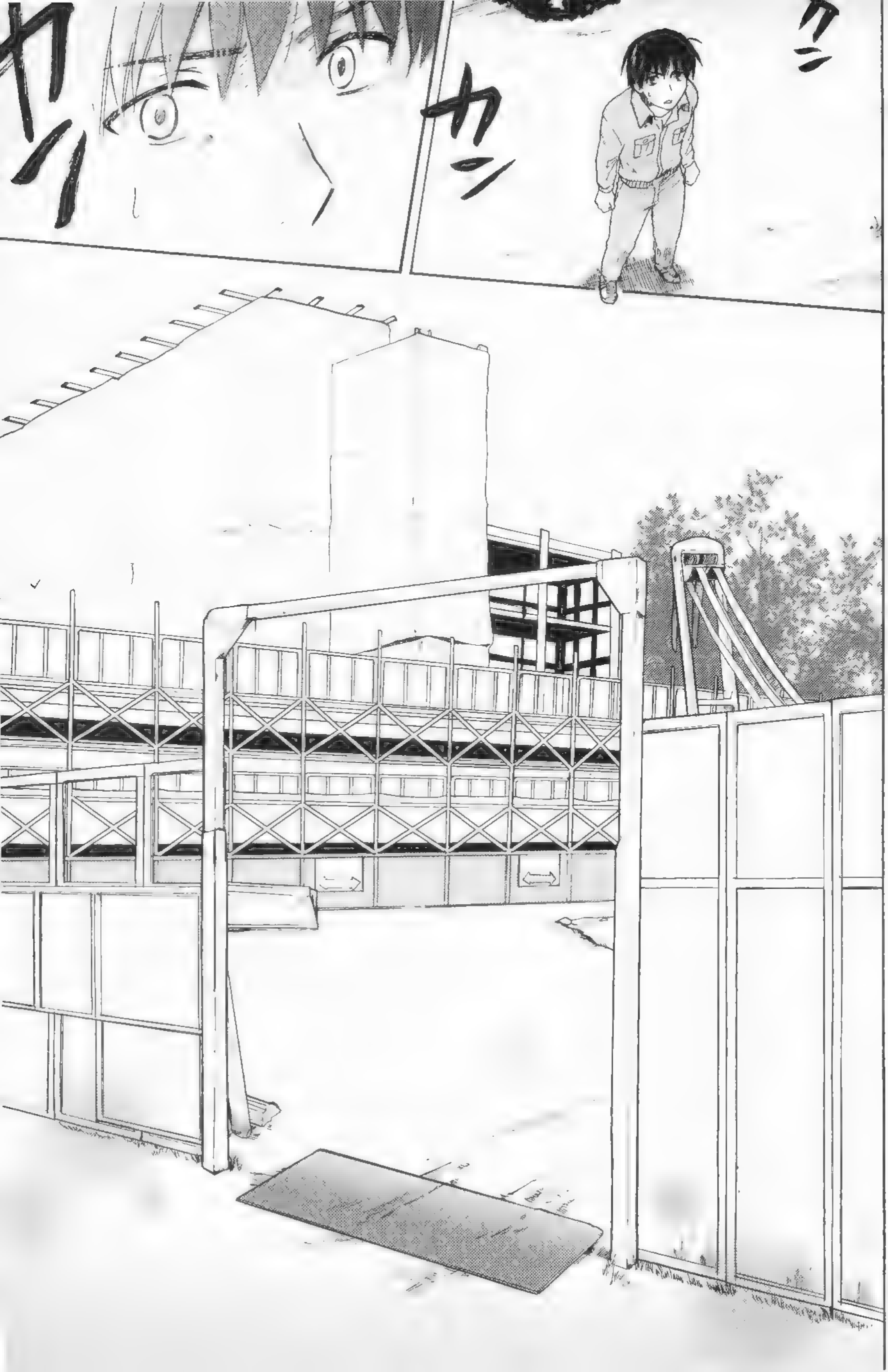


―かぁっ
だいたい なんなんだ このおしめの 量はよっ
!
…つーか いつも買ってくるの あんたなんだけど
朋也くんが今度 トイレの紙が なくなったら履くって 言ってました
それ… きっと カワイイですねっ
ちょ… 勘弁して くださいよ…
早苗さん まで…
あははは
なんだ… 早く言えよ 小僧
履くかっ!!
クスクス
おかしいです 朋也くんっ
俺たちが 今できる事
温かく そして強く 見守っていく事
それだけ だつた



季節は冬へと
移り変わり始める――……
ガチャン
芳野さん
片付け
終わりました
よし
昼飯に
するか
はいっ
――あ……


ダッ
おい
どこ行くんだ
すいません!
午後始める前には
戻りますから!
たたた…
……
向こうは――…
…確か
こっちの方――……
ハァ
ハァ
すぐ
近くだ…
あの場所は
どうなった
だろう――…?
ザッ


カン


――……
ガガガ
知らなかつた…
ヨロ…
こんな事になつてたなんて――
町は変わり続けていく
それを止める事は出来やしねぇんだよ
オッサン…


何もかも変わらずにいられねぇんだ
それが…人が生きてくって事だからな
…人が生きていく――
…だからってこんなふうに変えてしまうのは許されるのか
――この場所が渚の分身みたいに思えてよ…
…だというのなら
この工事さえやめれば渚は良くなるんじゃないか――…
…この工事妨害でもなんでもすれば渚は良くなるのかな…
馬鹿かてめぇは…
個人でどうこうできる規模じゃねぇよ犯罪になっちまう


…それに ここにできるのは 大病院だ
今まで この町には なかったもんだ
どれだけの 人の命が助かるか 考えてみろ
仕方ねえんだよ これは…
オッサン
——ずっと 見ていたんだろうか
俺を連れて来た あの時以降も…
どんな思いで この場所を 見て来たんだろう
オッサン…
俺 この町が 嫌いになりそうだよ
変わっていく この場所を——…
——…
——そいつは お前の勝手だが 自暴自棄には なるなよ


もし
どうしても
罪を犯しそうに
なったら
まず俺に言え
止めるのかよ
止めや
しねぇよ
俺が代わりに
やってやるだけだ
…。
その言葉で
正気に戻った
気がした
俺は
やっぱり
この人も
大好きだった


ガチャ
ただいまー
おかえりなさいです朋也くん
おかえりなさい すぐ晩ご飯にしますね
あ…すいません早苗さん
朋也くん
ん?
外は…まだまだ寒いですから…
どうした? 寒くないか
平気です
わたしより朋也くんの方が冷たいです


…けど 寒くても
いい事があるんだ
なんだと思う？
え…
なんですか？
12月24日は
クリスマスイヴ
同時にお前の
誕生日だ
プレゼントは
何がいい？
わぁ…
それじゃあ
またあれが
いいです
あれ
え
…あれ以上あったって
仕方ないだろう
あんなもん…
いえっ！
たくさんの方が
嬉しいです
だんご
大家族ですっ
こうなったら
1年にひとつずつ
増やしてくか？
…プレミアついてて
すげー探すの
大変だけどさ
…あ
そうなん
ですか…
やっぱり
難しいですよね…



少し…残念です
渚 横になれ
あ…
すみません
…うん
いや…でもそのくらいしないとな
お前の誕生日なんだし
本当ですか？
一番大事な人の誕生日なんだし
えへへ…
すごく嬉しいです
よしっ
絶対探してやるから期待してていいぞ
はいっ


2週間後——…
12月24日 クリスマスイヴ
ニコ
ニコ
誕生日おめでとう 渚!!
ハッピーバースディ!!
わっ
Happy Birthday! Nagisa
わーっ
パチ パチ パチ パチ
ふーっ
ありがとうございますっ
もう21か… 早ぇもんだなー
そうですねっ
渚
ほら 約束のプレゼント


わぁ…っ
ありがとうです
すごく
かわいいですっ
ひしっ
ぎゅ～～っ
まぁ
色が違うだけなんだけどな それ
このかわいさは飽きないという事です
あ…そ
だんご娘め…
古いだんごたちが嫉妬しちゃいそうですね
クスクス
一度にたくさん抱けないです
だから朋也くんに抱いてほしいです
え？
俺？
どうぞっ
朋也さんっ
ぬっ
ど――ん
じっ…
………
渚…
え
マジで？


だきっ
…こ
これでいいか？
はいっ
うわははははははは
ゲラゲラ
似合ってますよ朋也さんっ
~~~っ
朋也くんかわいいです
むぎゅう
そうかよ…
うれしくねぇ
ッ
―あ
…いつも抱いてたもんな
だんごからは渚の匂いがした
~~~


渚 ケーキ 食べられますか？
はい 少しなら…
食えるうち 食っとけよ なんせ ふたり分なんだからな
すみません 朋也くん…
こんな わたしのために…
幸せになれ 誰よりもな
あれから 2年――…
この日 渚は 一度も 泣かなかった
ずっと 笑ってくれた



お疲れ様 岡崎くん
お疲れ 岡崎
はいっ お疲れ様です よいお年を…
ガチャ
ぶるっ
う…寒———…
今年最後の仕事の日
この町に雪が降った


…雪だ
どうせなら
クリスマスに降ればよかったのに…
それだったらきっと――…
もっと渚は笑ってくれた
――…
昔はこの町にも積もるほど雪が降っていた
今では雪はすぐにみぞれに変わりあっという間に溶けていく
グチャ…
雪とみぞれでドロドロになるこの道――
気づけば多くの事が変わってきていた


チャッ
だけど
何もかも変わらずにはいられねぇんだ
それが人が生きていくって事だからな
仕方ねぇんだよ これは
ああ…
わかってるよ オッサン
何もかも…変わらないでいてほしい



IN
……
そう願わずにはいられない
……
その日降った雪は2時間ほどで溶けていった

CLANNAD

-クラナド-

オフィシャルコミック

第38回
～ありふれた未来～




元旦
渚
渚
俺
渚
俺……と
うーん 渚の方が多いかな…
あ でも 朋也くんの名前も入っていますよ
学生の頃の友達ばかりですから
そっか 俺は仕事の関係ばっかだな〜
お、芳野さんから来てる
えへへ 杏さんや坂上さんからも来てました
え マジ?
あいつら住所とか知ってんの?
はい 卒業式の時いろいろお話しましたから
びくっ
どーん


でも こうして 年賀状の やりとりできて 嬉しいです
えへへ
まーな
ガチャッ
うーさむ
おう 上がるぜー
バタン
こんにちはー お邪魔しますねっ
あけまして おめでとうございます!
おめでとう ございます
初詣 人多かっただろ
どうだった?
それだよ それ!
まったく 他に行くとこ ねえのかね… あいつら
きっと 向こうも そう思ってるよ
でも その分 しっかりお参り してきましたよ
おう!
渚と いうわけで



安産御守
お土産だ
わ…
ありがとうです――……
嬉しいです
年が明けて――
渚のお腹はだいぶ目立つようになっていた
渚の体調は相変わらずだったが お腹の子は順調といえた
お守りか…
最後は神頼みって感じだな――…
あ…
ふふっ しおちゃんも喜んでるみたいです
あんだと？
もうわかるってのか汐には


はいっ なんせ一心同体ですから
つーか外の音も腹の中まで聞こえてるらしいからな
案外もうわかってるのかも——…
ほう…
キラーン
汐——っ パパだぞーっ
こらこら——っ!!!
ウソを教えるなよウソを!!
い…今のは間違いです しおちゃんっ パパは朋也くんですっ
てめーらの子供は冗談も通じねえのかよ
あ——あ 嫌だねえ…
この年でじいさんなんて呼ばれちまうのか俺は…
あ…
というわけで俺の事はあっきーと呼ばせよう
いいかー汐 あっきーだぞ
ったく…



朋也さん ふたりともお雑煮まだでしょう?
台所お借りしますね
あ はい 手伝いますか?
大丈夫ですよ すぐできますから
渚も少し食べてくださいねっ
はい 大丈夫です
6畳半の狭い部屋
早苗さんの作ってくれた雑煮を食べて4人で過ごした
そんな正月だった


3日には珍しい客が訪れた
コンコンコン
…今誰か来ませんでした?
え マジで?
オッサンたち以外に誰だろ…
コンッ
ココココンッ
ゴンッ
あーーはいはいっ
コンコン
ったく…誰だよ
はいはい今開けますよ…
カチャ…
よっ


元気してたか〜岡崎
ははっ
——…っ
春原あ〜〜〜!!?
こんにちは—
あけましておめでとうございます岡崎さん
ども—
仁科たちまで…どうしたんだよ一体…
ニコー
まあお友達が来てくださったんですかっ
さては早苗さん知ってたな…
そういう事か…
なんだよ岡崎久しぶりに会ったっていうのにつれない奴だなー
ポン
上がってもらったらどうでしょう朋也さんっ
…まぁとりあえずどうぞ
やり〜っお邪魔しま——すっ!
お邪魔しますく
どや
どや


…いや よく見たら全然知らない奴だった 誰だ お前
あんたそれ卒業式ん時も言ってませんでしたっけ…
悲しくなるからやめてくんない？
あははは
ハハハ
え…
パア…
みなさん来てくださったんですか…!?
やあ 久しぶりだね 渚ちゃんっ
みんなの休みがそろったからびっくりさせようと思ってさ！
どろ
どろ
あけまして おめでとうございます 古河さん
遅くなりましたが ご結婚おめでとうございます
コホン
え——と それでですね 古河…いえ 岡崎さん
同時におめでたという事でしたのでお祝いにこういったものを用意しました
ベビー用品です〜〜〜
ベビー用品
御祝



わぁ ありがとう ございます
オッサン…!!
おう…!!
——って
なんで俺がてめーにアゴで使われなきゃならねーんだっ
いててててギブギブ!
あ…もう たくさんあったみたいですね…
いえ どうせ使うものですから たくさんあっても困らないです
嬉しいです ありがとうございます
みなさん 余りもので恐縮ですが おせち食べてってくださいね
よしてめぇら ハタチなってんだろ 酒飲むぞ 酒!
は…はいっ
あ…そう言ってもらえると…



しかし…
この人数でこの部屋に入るか…？
なんか学生寮の頃思い出すよね
ぞろ
ぞろ
とりあえず乾杯すっかー
すいません
じゃっ
新しい年と渚のおめでたを祝って———…
乾杯———!!
カチン
かんぱーいっ
酒を飲んでおせちをつついて…
俺たちは楽しい時間を過ごした
あははははは
それにしても——



古河さんのお父さんって若くて格好いいですよね
ね――っ
かっ…そうだろそうだろ
惚れろっこの女どもも!!
お母さんも若くてかわいいですよねっ
ガタッ
かっそうだろそうだろ
俺の女だからなっ
見習え この女どもっ!!
……
オッサン…絶好調だな…
わはははは
なぁ岡崎
つーとふたりの名字なのか…ややこしいな
構わないですいつものように呼んでください
なぁ岡崎
なら岡崎のままで



父親になるってのはどんな気分なんだ？
…なんだ？妙な事を聞く奴だな
僕はさ
そんなものになるなんてまだまだ先の話だと思ってたんだよ
でもさ お前がそうなるって聞いて
父親ってもんが急に身近に思えてきたんだ
お前らの前でこんな事言うのもなんだけどさ…
僕は
自分が父親になるなんて天災のようなモンだと思ってる
そのくらい進んでなるもんじゃないって事
だからさ
どんな気持ちでそんなものになろうとしているのか知りたいんだよ
……


わかんねぇよ…
え？
実感だってまだないしよ…
――ただ
好きな人ができて…
そいつのために生きてたらそうなった…それだけだよ
――はっ
ははっ
結局 岡崎何も変わっちゃいないな
そうか？
ああ僕はてっきりお前と渚ちゃんが遠い所に行っちゃったのかと思ったよ
でも案外近くにいたんだなって


…そうだよな
無我夢中になってたら父親になってた——
たまに集まればさ あの時みたいに馬鹿やれる仲でいたいよな
うん それなら納得いくよ
ぷっ
——ああ
まったくだ


お邪魔しましたー
またなー
ぽーーっ
今日は疲れただろ 渚
熱も上がってるし 休んでた方がいいぞ
渚?
…歌なら俺が歌ってやるよ
それ聞いて渚は休んでろよ
渚ーー…
だんごっ
だんごっ


だんごっ
お前な…怒るぞ
だんご…
だって
ひとりより
ふたりの方が
楽しく歌えます
今日は楽しかったからなおさら…
う…
わたしたちが
楽しく歌えば
しおちゃんもきっと
楽しく思います
はあっ
わかったよ
じゃあ
せめて
小さくな
はいっ
正月が終わる——…
こうして
楽しい時間は
過ぎ去つた


ハァ…
1月の終わりから
渚の熱は
上がり始めた
ハァ…
そして
起き上がる
事すら
できなくなって
しまった
それに反するように
お腹の中では
新しい命が
躍動していた
力強く この世界に
生まれる事を
待ちわびているように
それはまるで…
ドクン
ゆっくりと



自らの命を
我が子に
受け渡していく光景
ドクンッ
抱いていた不安が
形になろうしている…
——嫌だからな
そんなの
絶対に駄目だ
俺——…
お前が
いないと…
渚と
生きていく事…
それが
俺の生きる理由
なんだから…!!



プルルルッ
プルル。。
ガチャ
はい 岡崎です
あ… 朋也さん 早苗です…
早苗さん？ どうしたんですか
あの… 秋生さん そっちに行ってませんか？
オッサン？ 来てませんけど… いないんですか？
昨日の夜から 帰ってきて いないんです…
午後のパンを 焼いた後 ふらっと出て行って そのまま――…



——あ
きっと…あそこだ——…
俺ちょっと探してきます
え…でも
ちょっとあてがあるんです
渚も今は眠ったばかりですから少しだけ…
その…私がそこに行く事にして場所を教えていただく事はできませんか…?
——!
きっと…話しても悲しませるだけだ
…いや
それは教えられないんです すみません…
元気のない声
そうですか…
きっと心配してろくに寝られてもいないんだろう——…
すぐです大丈夫ですから
…わかりました よろしくお願いします…
胸が痛んだ


たっ
たっ
たっ
オッサン…
いるとしたら
きっと ここだ…
ハァ
ハァ
どうしたってんだよ…
人の声——…
嫌な予感がした
立ち退きもなかった
こんな土地にだよ…!?
話がおかしいんじゃないか…!
知らないよ
こっちだって!!


しかもひとりだっていうじゃないか
あんな大人が出てくるなんて——…
間違いない——
オッサンだ…
ここにはいないのか——…
ドさっ
くそ…っ
何やってんだよオッサン…!!


ハァ…
ハァ…
オッサン…!!
――よう
朋也じゃねぇか
あ…っ
あんた…
何してたんだよっ!!!
なんでもねぇ…
大丈夫だよ
これから
帰るとこだ



あんた…
俺がやるまでやらないんじゃなかったのかよ…！
そんな約束はしてねぇな
おまえがやるなら代わりに俺がやるって言っただけだ
…木をさ伐採にかかりやがったんだ
……木？
話では残しておくはずだったやつをな
…別に考えてたわけじゃねぇ
それ見たら体が勝手に動いちまったんだ
──…
──何が大丈夫だって？
くら…


──まあ 話聞いたら それは現場判断でよ…
結局 木は残してもらえる事になった
病院の隅っこに ちょっとだけ だけどな
今頃──… 朝になって帰してもらったんだろ?
早苗さんが どれだけ 心配したか──
…
…だから 大丈夫なんだよ
もっと面倒な事に なってたかも しれないんだぞ…!!
そんだけの 事だ
…オッサン
あん?
殴っても いいか?


――っ
いてえなぁ！何すんだっ
その痛みで覚えとけよっ
早苗さんにどれだけ心配かけたか――…
覚えとけっ


だって心配したんだ俺だって
帰るからな俺…!
この程度で済むならラッキーだろ
――ああ
どうかこれ以上
辛い事なんて起こりませんように
ふ…
……
――…


朋也くん…
ん…
どうした渚
もう夜だよ
——このまま
もう少し寝るといい
——熱…
ずっと高いままだ
顔もやつれてる…
わたし迷惑かけてます…
馬鹿…んな事あるかよ
誰よりも頑張ってるのはお前だってみんなわかってる
…そうでしょうか
渚は もう
ボロボロに見えた
ああ だから寝ような
今は苦しくないんだろ？
はい…
でも少しだけ話をしてもいいですか？
…じゃあ少しだけだぞ
はい



わたしの今の目標は
この子を産む事です
——そして
この子と…朋也くんと
3人で生きる事です
——ありふれた未来
当たり前の未来
そんな普通のなんでもない未来が


どうして夢のように思えるんだろう
——思えば
渚の行く道はいつだって困難に満ちていた
普通の幸せが人よりずっと遠くてはるか彼方にあった
生きる事ただそれだけが
す——……


眠ったか…
波が押し寄せる
すぐそこまで来た波が
大切なものをさらっていく…
――渚…
ずっと…だからな
渚…

CLANNAD
-クラナド-
オフィシャルコミック


第30回
〜つないだ手〜


――あ…
あぅ…っ
――渚!?
早苗さんっ
渚が…!!
痛いんですね? 渚
陣痛です
朋也さん
八木さんに連絡してください
は…
はい!
ザァァァァ…
もしもし八木さん! 岡崎です
――はい
…はい! お願いします!!



とうとう その時がやって来た
ハァ…
ハァ…
ザァアアアアアア…
ガチャ
八木さん…！
八木さんっ 渚が…!!
わかってます 落ちついてください 岡崎さん
陣痛の間隔は？
今2分くらいです
……
落ちつけよ 朋也
オッサン…


今更じたばたしたって始まらねえよ
やれるだけの事はやったんだ…
おめぇがしっかりしてねえでどうするよ
あ…ああ
やれるだけの事——
俺が渚の為にしてやれる事はもう祈る事だけなんだろうか
それでは分娩に入ります
古河さんお湯を鍋いっぱいわかしておいてもらえますか？
おうっ
それから岡崎さん
ドキッ
は…はいっ
お父さんはこっちでお母さんを励ましてあげてください
あ…
——それなら 得意だ
はいっ


渚
ハァッ
ハァッ
渚っ!
あの手を握ってあげてもいいですか?
もちろんです
ぜひそうしてあげてください
ぎゅっ…
渚!
頑張れよな渚…!!
俺はここにいるから…
負けるんじゃないぞ…っ



――あとはもう全て渚にかかっていた
いきますよ
はいっ ゆっくり吸って
吐いて…
うう…っ
ハァ
はいっ もう一度…
ぎゅっ
渚…!!
頑張れ 渚…っ!!


あ…
――あ…っ
う…
分娩中
渚は痛みで
何度も
意識を失った
その度 苦痛で
現実に引き戻され
痛みを受け続ける
あ…う…っ
うう…っ
こんなの――…
まるで拷問じゃないか…！
頑張るも何もない…
死んでしまう
じゃないか…っ!!
ずっと…こんなの
受け続けたら
渚が
死んでしまう…


わたしの今の目標は…この子を産んで
この子と朋也くんと3人で生きる事です
ドクン
ドクン
渚の生きる理由…俺の生きる理由…
朋也くん手を握っていてほしいです
そうすればどんな事だって頑張れると思うんです
母親として
ぎゅう…
ドクン
渚…負けるなよ…
早く…早く終わってくれ——…
ただ 強く祈り続けた



…
…どのくらい時間が経ったんだろう
…俺はどうしたんだ？
心が堪えられなくなってしまったんだろうか
あるいはすでに絶望してしまったんだろうか
すべては終わってしまったのか――…？
…ア…
アァァ
オギャアアア
オギャアアアア


おめでとうございます岡崎さん!!
ほら 元気な女の子ですよ…!
あ…
──産まれた
さあ…抱いてあげてください
おぎゃあ
おぎゃあ
俺たちの子供


渚…
俺たちの子供だ…
汐だよー…
…な
渚——？
ドクン
渚あ…っ!!
ドクン
ドクン
…朋也くん
ああ…
俺はここにいるぞ…！

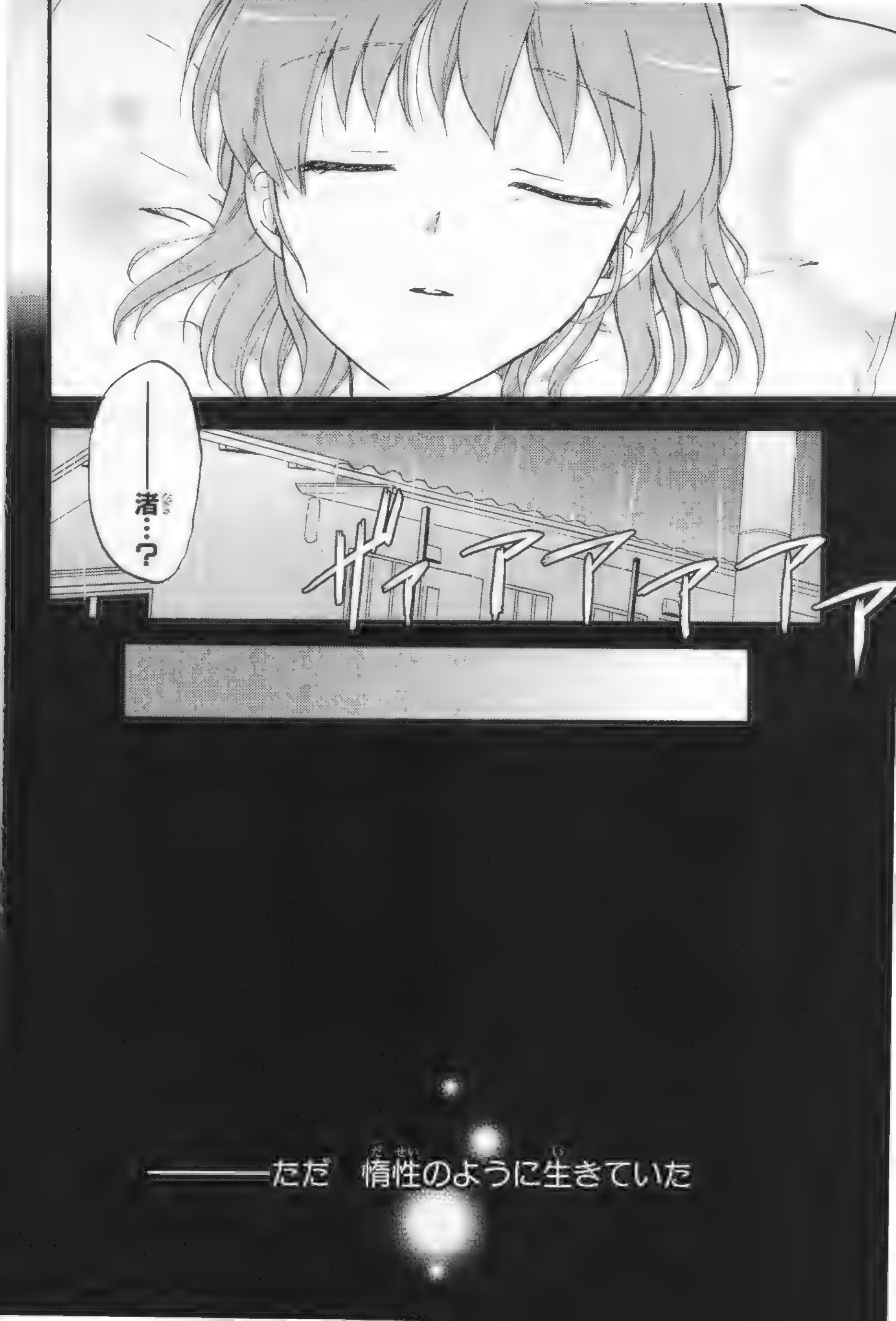

…頑張ったな渚
やったんだよ
わかるか…？
汐だ
俺たちの子だ
女の子だよ
はい…
かわいいです…
…でも
疲れてしまいました
少しだけ…
休ませてください
ゾクッ
な…
待ってくれよ渚
もう少し
話をしていよう…
聞いてくれるだけでもいいから…!!
——ぞっとした
渚の顔色があまりにも白かったから…
はい…
だから
話し続けた
ほら…
俺とお前の子だ…
すげー小さい…
猿みたいだよな



汐…パパだぞ
こっちはママだ…
はは…無視された
子供の成長なんてさ きっとあっという間だぞ
すぐ大きくなって幼稚園…
入園式は俺とお前が付きそってさ…すごく滑稽な姿だよな…きっと
まだまだ子供みたいな俺たちが子供連れて
面白いよなきっと…
小学校に入ったら家族でやる行事なんかにも参加して…
そんなの一番馬鹿にするような奴だったのにさ…
——でも…
心配だな 俺——…
お前がこいつにだんご大家族ばっか聞かせてたから
同じシュミになりそうでさ
すはっ
——ずっと…


ずっと…俺のそばにいてくれるって言ってくれたよな
渚の…かわいいとこだけ似てくれたらいいな…
少しくらい泣き虫でも頑張る時は頑張る…そういう子がいいな
それが俺の見つけた夢なんだから
不器用でもいいからさ…
思いやりがあって…
他人の為にも一生懸命になれる——…
そんなお前みたいになってくれたら…
いいな…
生きていたっていい事なんて何もない…くそ面白くもない人生だって——…
そう思ってた奴がやっと見つけた夢なんだ
な…渚——…
生きる希望なんだから


行くんじゃないぞ…
どこにも———…


——渚…？
ザァアアアア
———ただ　惰性のように生きていた



起きて
仕事に出かけて
食べて…寝て…
体が　覚えている事をただくり返すだけ
そんな日々に生きていた


少し休んだらどうだ
芳野さんが何度そう言ってくれても仕事を休む事はしなかった
仕事してる間は何も考えずにすんだ
それでも仕事自体が休みになる事がある
俺は暇を埋めるためにお金を使ってみた
そうすると その間は思ってた以上に無心でいられた
その日から俺は仕事でお金を貯めてできた暇を潰す為お金を使い続けた
アルコールやたばこも始めるようになった
——でも
ふと現実を見つめれば足元から崩れそうだった


マーマッ
しっ 指ささないの！
――……
自分は人より弱く出来ているのだろうか
それとも人以上に悲しい事があったのだろうか
――よくわからなかった
ただ言える事は自分には辛すぎる――……
それだけだった
こんにちは朋也さん
そんな俺の元へ早苗さんは頻繁に訪れた
――汐を連れて
ほら汐パパですよ
俺は辛かった



早苗さんは失った人に似すぎていて…
うー
そして 今 俺の膝を叩くこの手の主も
あ うー
――…
許してください… 早苗さん…
ああ 俺は こんなにも脆い
…すみません また…来ますね
いっそ逃げてしまえば楽だったかもしれない
でも あの人たちを裏切る事はできなかった
辛いのは俺だけじゃないんだ
1年が過ぎ 2年が過ぎ――…
あの日から何年経ったとか そういう事も 考えられないくらいに がむしゃらに生きた



けれど　ひとつだけ
それを思い出させる
存在があった――…
…その
制服――…
幼稚園の
制服ですよ
朋也さん
日曜日…
入園式の日は
お休みですか？
汐だけは
変わり続けていく
会う度に大きくなり
顔つきを
はっきりさせていく
あの悲しかった
出来事は
本当にあった事で
そして
もうそれは
遠い日の話なんだと
時間の流れを
突きつけられるんだ
なんて残酷なんだろう
すいません…
日曜　俺
仕事なんで…
だから
汐が幼稚園に入園した日も
俺は仕事をしていた


――そして
今年もまた暑い夏がやって来る
ミーーッ
ミーーッ…
ジーワ
ジーワ…
こんにちは朋也さん
ガチャ
早苗さん
今日も外ものすごく暑いですよっ
そうですか…
暑いのに無理して毎週来なくても…
じっ…
あ…


すみません
今日はひとりなんですよ
汐は家で留守番してます
あ…
そうなんですか…
ええ
すみません
いや…別に謝る事じゃ…
じゃあ今日はどうしたんですか？
はい 実は朋也さんにお願いがあって
お願い…？
さらり
ええ
よかったらデートしてもらえますか？
デート…!?
いや…俺仕事で疲れてるんで…
暑いし…
ミーー
休みだからこそリフレッシュも必要ですよっ
それに…朋也さんは優しくてカッコいいですしわたしの好みのタイプなのでぜひデートしてほしいんです
う…
…怪しい…
早苗さんのそういう時って絶対何かあるんですよね…
そんな事ありませんよ
デートしましょう


のそ…
…そこまで言われたら
デートしないわけにはいかないっすよ…
それじゃOKですねっ
ええ…
どこへ行くって言うんですか？
じゃあ駅の方へ行きませんか
ジク
ジク
…変わりましたね この辺
そうですか？
朋也さんはあまりこの辺来てなかったんですね


…そうですね あまり来てなかったです
……――
さ…早苗さん？
朋也さんっ
わたし あのお店に行ってみたかったんですっ
つき合ってもらえますか？
…鋭い……



——ええ
デートですからね
早苗さんに
付き合いますよ
はいっ
ありがとう
ございます
——こうして
俺と早苗さんは
いろんな店を回ったりして
本当にデートのような
久々に楽しい気持ちに
なれたのだつた
チョコパフェ
ひとつ
じゃあ
俺は
ケーキセットで
お飲み物は?
アイス
コーヒーで
かしこまり
ました
ふう…
やっと
涼めますね
そうですね
買い物も
楽しかったです
まあ
そうっすね
俺も久々で
楽しかったですよ
……


今年の夏は まとまったお休みが とれるんですか?
休み ですか?
とろうと思えば とれますよ 盆休み
でも休んだって する事ないし 仕事していたいっすよ
それじゃあ どこかへ 出かけませんか
え? 早苗さんと ふたりでですか?
いいっすね それ
違います
わたしと 秋生さんと 朋也さん——…
そして 汐です
…やっぱり 考えてたんすね そういう事
いえ ただの 思いつき ですよ
でも


それなら俺はいない方がいいです
あいつは俺に懐いてないし…
早苗さんとオッサンと３人で行ってきたらいいじゃないですか…
それに…俺は子育てとかそういうの全部放棄して…
全部早苗さんやオッサンに押しつけて…
…そんな資格俺にはないっすよ
資格じゃないです義務ですよ親としての
――…
汐はずっと寂しがっているんです
ずっとお父さんがそばにいなくて
せっかくの夏休み…
汐にもいい思い出作ってあげたいじゃありませんか


――……
しばらく…考えさせてください…
そう返すのがやっとだった
――今更…取り戻せとでも言うのだろうか…
翌日――…
プルル…
プルルルルッ
はい 岡崎です
早苗です あの 旅行の件なんですけど
予定は決まりましたか?
え…
早苗さんから電話がかかってくるようになった
いや…すいません まだ…
そうですか? ではまた10分後にかけ直しますね
いや…もう仕事なんで…
じゃあ 夕方見はからってかけ直しますね?
朝・昼・晩と連日かかってくる催促の電話
プルルル
ドキッ
あまりのしつこさに音を上げ…
…わかりました お願いします
とうとう俺は折れてしまったのだった


――そして あっという間に 旅行当日の朝
はぁ…
…古河の家も久しぶりだな
オッサンにもしばらく会ってないや…
顔見たら怒られるかもな…
――って
オッサンに怒られるなんていつもの事じゃん
何キンチョーしてんだか
ガラッ
ちぃーーす
○.○.○


――あれ…
準備中かな…？
おーい 早苗さーん
早苗さ――……
ガチャ
オッサーン
……
まだ寝てるとか…
なわけないよな
嫌な予感…
朋也さんへ
手紙…!?
――朋也さんへ
急用ができてしまい秋生さんとしばらく出かけることになってしまいました
ですので旅行のほう汐とふたりでよろしくお願いします
古河早苗
P.S
交通手段やルートは裏面に書いておきました
う…
ウソだろ…?


バッ
カサッ
ザッ
パタ パタ
じっ…
早苗さん…
冗談キツイっすよ…
朋也さんへ
急用ができてしまい秋生さんとしばらく
出かけることになってしまいました。
ですので 旅行のほう
汐とふたりで よろしくお願いします。
古河早苗
PS 交通手段やルートは
裏面に書いておきました
[CLANNADオフィシャルコミック⑦完]

CLANNAD

-クラナド-

オフィシャルコミック


いよいよ、終りがやっと
見えてきました。
あともう少し、最後まで
お付合い頂けますと嬉しいです。
あと
オマケ漫画で、やっと勝平を
出すことができました…！
本当は6巻に入れたかったんですが
入れられなかったのが残念です。
できれば脳内補完という事で…
それでは次巻も
よろしくお願いします！
みさき樹里
★Special
Thanks★
夏野さん、まりも、あすらくん
轟さん、いっちゃん、百田くん、
みつなさん、高部さん、勝村さん、
keyスタッフ様、麻枝さん、
ありがとう
ございます…!!

CR COMICS

CLANNAD(クラナド)オフィシャルコミック⑦

●2008年10月13日　初版発行

著者●原作：Key(キー)
漫画：みさき樹里(じゅり)

発行者●石川順恵
発行所●ジャイブ株式会社

〒160-8565 東京都新宿区大京町22-1
●編集／TEL:03(5367)2744
●営業／TEL:03(5367)2725　FAX:03(5367)2709
●注文センター／TEL:049(274)1653　FAX:049(259)5244
●ジャイブHP:http://www.jive-ltd.co.jp

印刷所●図書印刷株式会社
電植製版●株式会社オノ・エーワン

Printed in Japan
ISBN978-4-86176-572-8
初出●月刊COMIC RUSH 2008年5月号～8月号・10月号掲載
デザイン●sio
制作協力●有限会社パルプライド（喜多村・和田・田中・勝村・遠藤）


あーもー
あっつい
あっつい
お姉ちゃん
邪魔しちゃ
悪いよー
みんな仲良く
はんぶんこなの
みんな
大好き
なの

9784861765728

ISBN978-4-86176-572-8
C0979 ¥562E

1920979005624

ジャイブ
定価 本体562円 +税



夏のある日――渚が倒れた。岡崎朋也は渚の両親の助けもあって事なきを得るが、渚と渚のお腹の赤ちゃんに対する不安が拭えないでいた。渚の熱が下がらない中、渚の父・秋生とともに町にでた朋也に、秋生は自分たち家族に起こった昔のある出来事を語り始める…。